

国語科学習指導案（2年4組）

1 題材 新聞の投書記事を書く

2 題材設定の理由

(1) 教材観

①学習指導要領上の位置付け

〔知識及び技能〕

(2)ア 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。

〔思考力・判断力・表現力等〕

B書くこと(1)考えの形成、記述

ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

B書くこと(2)言語活動例

イ 社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く活動。

②題材の価値

本題材では、「新聞の投書記事を書く」という言語活動を通して、自分の考えを裏付けるためのより適切な根拠の在り方を理解し、書こうとする根拠が自分の考えを支えるものであるかどうかを検討し、説得力を増すために、根拠を具体的に記述したりより効果的な語句や表現を選んで描写したりして、自分の考えが相手に伝わる文章になるように工夫して書く力を高めていく。また、投書記事の特性を踏まえ、自分の発信した情報がどう受け止められるかを想像することで、社会生活で求められる書く力が高められる。

③題材の系統性

・第1学年では、題材「鑑賞文を書こう」で、「根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること」〔B(1)ウ〕の指導事項から、芸術作品を見て受けた印象を鑑賞文にまとめるときには、鑑賞の観点を決めて感じたことを具体的に書き、根拠を明確にして文章にまとめることを学んだ。

・第3学年では、本題材での学習を生かして、「表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫すること」へとつなげていく。

(2) 生徒観（男子17名、女子16名 計33名）

①既習の学習内容や活動

・5月に、「社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら、立場を明確にして、文章の構成を理解して自分の意見を書くことができる」〔B(1)ア・イ〕を目標に、校内弁論大会（少年の主張）の原稿を書く活動を行った。

②本題材に関わる生徒の実態

・考えと根拠との関係についての理解については、「自分の考えを相手にわかるように伝えるためにはどうすることが必要だと考えるか」という質問に対し、「理由や根拠を明確にすること」に言及した生徒が27名おり、これまでの学習から根拠を明確にして述べることについて理解している生徒が多い。本単元では、様々な立場の読み手が投書記事を読むという視点を与えることで、社会生活で求められる根拠の一般性について視野を広げられるようにしていく。

・より説得力を増すために工夫して書くことについては、弁論大会後の振り返りワークシートから、複数の具体例を根拠として挙げたり、文章構成を意識したりするなどの工夫をしたと書いた生徒が21名だった。しかし、根拠があいまいで説得力に欠けるものや主張したいこととの結びつきが弱いものもあった。また、原稿に使用した語句についてどんなことを意識したか質問したところ、敬体について意識している生徒はいたが、「特に意識していない。」と答える生徒が半数以上で、より効果的な語句を選ぼうとする意識が高いとは言えなかった。新聞の読み手は年齢や職業なども様々であることを意識させることで、自分や同じ中学生以外の立場の人であっても自分の考えが伝えられるようにするための工夫を考えさせたい。

(3) 指導観

- ・実際の新聞の投書記事を提示したり、自分の書いた記事が掲載されることを伝えたりすることで、実践意欲を高められるようにする。
- ・投書記事に書く題材は弁論大会と同じでも良いこととし、書く題材が見つからないことが原因で書くことへの意欲が高まらない生徒がいないようにする。
- ・投書記事を下書きした後に、投書記事の特性について考え、自分の下書きを振り返ることで、自分に足りない視点や考え方に気付けるようにする。
- ・年齢や職業などの異なる複数の立場を意識して実際の投書記事を読み比べさせることで、根拠の一般性について考えたり、注意すべき点を見いだしたりできるようにする。
- ・辞書を活用することを促すことで、使用する言葉についての意識を高め、より効果的な語句の使い方について考えられるようにする。
- ・記事を家の人に読んでもらうことで、実際に他の立場の人に伝わる文章になっているかどうか確かめられるようにする。
- ・新聞掲載後、授業で紹介することで、自分の書いた文章が実際に新聞に掲載されたことについて気持ちを共有したり、社会生活とのつながりを感じられたりするようにする。

3 題材の目標

投書記事の特性を踏まえて自分の考えが伝わるように記事を書く活動を通して、考えを支えるための根拠の適切な在り方について理解し、根拠を具体的に記述したり効果的な語句や表現を選んだりして、自分の考えが相手に伝わる文章になるように工夫して書くことができる。

4 指導と評価の計画（別紙参照）

※別形式「指導と評価の計画」を作成

5 本時の展開 (2 / 4)

(1) 目標

考えと根拠がどのように結びついているか、どのような根拠が適切かなどを理解することができる。

(2) 展開

| 学習活動と予想される生徒の反応 | 指導上の留意点及び支援・評価 |
|---|---|
| <p>1 本時の課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時は投書記事を下書きしたが、けっこう難しかったな。 ・今日はより良い投書記事にするために必要なことを学ぶのだな。 | <p>○自分の考えを伝えるためにはそれを支える根拠が大切であることを伝え、本時の学習内容の焦点化を図る。</p> |
| <p>課題：説得力のある根拠の書き方について考えよう</p> | |
| <p>2 複数の投書記事から、それぞれの記事の考えと根拠をつかむ。</p> <p>○ワークシートに印字された投書記事を読み、記事を書いた筆者の考えとその根拠に色分けして線を引く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この記事の考えはすぐに見つかったけれど、根拠はどこだろう。 ・この記事は根拠を複数挙げてから考えをまとめているな。 <p>3 どんな根拠をどのように示すことが説得力につながるのか考える。</p> <p>○4人のグループを作り、それぞれの記事の考えと根拠を確認しながら、考えと根拠の結びつきや根拠の適切さについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この記事は○○だから、説得力があるね。 ・この記事の根拠は考えと合っていないような気がするね。 ・私はこの根拠で納得できるけれど、大人の立場だったらどうかな。あなたはどう思う？ <p>○学級全体で、説得力のある根拠の書き方について共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えと根拠とがはっきりとつながっているように書く。 ・根拠を複数挙げたり具体的に書いたりする。 ・読む人みんながわかる根拠を書く。 <p>4 本時の学習内容を振り返るとともに、今後の学習への見通しをもつ。</p> | <p>○考えと根拠に色分けして線を引かせることで、2つの関係に焦点を絞って学習が進められるようにする。</p> <p>○考えと根拠が明確に結びついている記事や根拠を複数挙げている記事、逆に、根拠が曖昧な記事や根拠に一般性が欠ける記事などを混ぜて意図的に提示することで、根拠の示し方にいろいろな形があることに気付いたり、根拠の適切さについて考えたりできるようにする。</p> <p>○説得力を感じる記事や説得力に欠ける記事を問いかけ、それが根拠とどのように関係しているかを考えさせることで、根拠の在り方が説得力へとつながることを理解できるようにする。</p> <p>○新聞という媒体であることにも意識を向けさせ、自分たちだけでなく、様々な立場の読み手にとって説得力があるかどうか想像させる。</p> <p>○個人では考えと根拠との関係性を見出せない生徒も、友達の話ややりとりから、考えと根拠とのつながりや根拠の適切さについて気付けるように、グループで活動を行う。</p> <p>○学級全体で共有することで、それぞれのグループで気付かなかった根拠の書き方についても確認できるようにする。</p> |
| <p><振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えと根拠がしっかりと結びついているとわかりやすく説得力のある文章になるのだな。 ・新聞を読む人のことを考えて根拠を選んで書くことが大切だということがわかったな。 | |

<見方・考え方を働かせる問題解決の過程の工夫>
 ※学習用語の獲得と活用を目指した説明的文章の指導の系統化

指導と評価の計画 国語 2年 題材「新聞の投書記事を書く」(全4時間計画)

| | | | | | |
|------|---|--|---|--|--|
| 目標 | 投書記事の特性を踏まえて自分の考えが伝わるように記事を書く活動を通して、考えを支えるための根拠の適切な在り方について理解し、根拠を具体的に記述したり効果的な語句や表現を選んだりして、自分の考えが相手に伝わる文章になるように工夫して書くことができる。 | | | | |
| 評価規準 | <p>【知識及び技能】 投書記事として、考えを支えるための根拠の適切な在り方について、理解できる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】 投書記事の説得力を増すために、根拠の適切さを考えて具体的にしたり、より効果的な語句を選んだりして、自分の考えが相手に伝わる文章になるように工夫して書くことができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 投書記事の特性を意識しながら、自分の記事がより説得力を増すように工夫して書こうとしている。</p> | | | | |
| 過程 | 時間 | 目標・課題 | 学習活動 | 振り返り | 評価項目 (方法・観点) |
| つかむ | 1 | <p>◎社会生活の中から課題を決め、新聞の投書記事に興味をもって書こうとしている。</p> <p>投書について知り、課題を決めて記事を書いてみよう。</p> | <p>○辞書で調べたり新聞の投書欄を読んだりして投書記事について知る。</p> <p>○各自で課題を決めて投書記事を書く。</p> | <p>☆自分の考えや感想などを新聞等へ送ることを投書というのだな。自分の考えたことや書いた文章が新聞に載るなんて驚きだ。今日書いた投書記事をこれからより良くしていこう。</p> | <p>【主体的に学習に取り組む態度】 新聞の投書に興味をもち、自分の考えを記事に表そうと意欲的に取り組むことができる。 (観察、ワークシート)</p> |
| 追究 | 1 (本時) | <p>◎考えと根拠がどのように結びついているか、どのような根拠が適切かなどを理解することができる。</p> <p>説得力のある根拠の書き方について考えよう。</p> | <p>○複数の投書記事から、それぞれの記事の考えと根拠をつかむ。</p> <p>○どんな根拠をどのように示すことが説得力につながるのか考える。</p> | <p>☆考えと根拠がしっかりと結びついているとわかりやすく説得力のある文章になるのだな。</p> <p>☆新聞を読む人のことを考えて根拠を選んで書くことが大切だということがわかったな。</p> | <p>【知識及び技能】 考えを支えるための根拠の適切な在り方について理解できる。 (発言、ワークシート) ★学習用語「根拠」</p> |
| すすめる | 1 | <p>◎自分の考えが読み手に伝わる文章になるように、工夫して書くことができる。</p> <p>投書記事を読む相手に自分の考えが伝わるように、より説得力のある記事に書きかえよう。</p> | <p>○前時にとらえた根拠の適切さについて、自分の書いた記事を振り返る。</p> <p>○振り返りをもとに、自分の投書記事を修正する。</p> | <p>☆前に書いた記事のままだと、大人には自分の考えが伝わらないかもしれないな。</p> <p>☆根拠について少しくわしく説明しよう。言葉もこっちの言葉のほうがいろいろな年齢の人に伝わりそうだな。</p> <p>☆家族に読んでもらって、きちんと考えが伝わるかどうか確認しよう。</p> | <p>【思考力・判断力・表現力等】 具体的に説明を加えたりより効果的な語句を選んだりして根拠の説得力を増し、自分の考えが相手に伝わる文章になるように工夫して書くことができる。 (ワークシート) ★学習用語「根拠」</p> |
| まとめる | 1 | <p>◎自分の考えを相手に伝えるための工夫についてまとめることができる。</p> <p>自分の考えをより相手に伝えるための方法についてまとめよう。</p> | <p>○友達と投書記事を交流する。</p> <p>○自分の考えを相手に伝える工夫についてまとめる。</p> <p>○投書記事を清書する。</p> | <p>☆どんな相手を読むかを意識して、その相手に納得してもらえようような根拠を示すことが大切だったな。</p> <p>☆使う言葉によっては、わかる人とわからない人がいるし、言葉によって伝わり方が違うこともわかったな。</p> | <p>【思考力・判断力・表現力等】 自分をより説得力をもって相手に伝えるための工夫についてまとめることができる。 (発言、ワークシート)</p> |